

平成22年度 入学試験問題

作業療法科学域・小論文

試験時間 10:30～12:00 90分間

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題は計4問、問題冊子は3ページです（表紙、余白を除く）。
3. 試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせて下さい。
4. 解答用紙の所定の記入欄には、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入して下さい。
5. 解答は、解答用紙の解答欄に記入すること。解答用紙の余白や裏面には記入しないで下さい。
6. 草稿のために問題冊子の余白等は適宜使用してよい。
7. 試験終了まで退室してはいけません。
8. 解答用紙は必ず提出して下さい。問題冊子は持ち帰って下さい。

I. 次の文章を読み、設問に答えなさい。

仲正昌樹：「不自由」論——「何でも自己決定」の限界，ちくま新書，2009（第6刷）より。
192ページ（最後から1行目）から195ページ（第1行目）までを引用。問1の下線部は、193ページの12, 13行目にまたがる一文。

問1. 下線部について、なぜ著者はこのように考えたのか、100文字以内で説明しなさい。

問2. 臨床場面で、患者が自己決定するときどのようなことが大切であるのか、著者の考えを引用しながら、あなたの考えを500文字以内で説明しなさい。

II. 医療事故について、次の設問に答えなさい。

問1. 最高裁判所事務総局は1970年以降、毎年新しく提訴された民事医療訴訟*の件数を公開している。その中の資料の一部、下図から読み取れる事実を200文字以内でまとめなさい。

問1の下図は、東京大学医療政策人材養成講座編：医療政策入門—医療を動かすための13講一。医学書院2009、209ページ図表10-5を引用した。

問2. 医療事故を予防するためにどのようなことが重要であるのか、あなたの考えを600文字以下で説明しなさい。

*民事医療訴訟：個人の争いごとの解決法。捜査手続きはなく、誰もがいつでも提訴できる。弁護士が関与するときは「代理人」と呼ばれる。手続きの途中で話し合いがつけばいつでも和解による解決が可能で、話し合いがつかなければ判決に至る。